

話題の最前線を行く

成功のヒミツ 失敗しないコツ

<321>

年間49万人が訪れるほどになって、いって、イチゴ大福、ピザ、ソーセージ、郷土の寿司作りができます」

「会話が苦手な人も体験を通じて打ち解けない。農地を使った農業塾にビュッフェレストランの経営。レストランでは結婚式や法事も実施。農業の仕事を手伝ってもらいながら交流できる場として農家12戸が連携した農家民泊もやっている。」

長崎県中央部・大村市の山間地が賑わいの場となっている。イチゴやブドウのもぎ取り体験に家族が訪れる。環境がよく、密にならず、おいしいものをいただけるから。もぎ取りは婚活の場にもなり、収穫した果実でスイーツを作って知り合うイベントも開催。これまでに35組ものカップルが誕生した。

中心になっているのは複合施設「おおむら夢ファームシユシユ」だ。農産物直売所を始めた地元農家8人が、2000年に1500万円を出資してこの観光ファームを設立した。今では

長崎県大村市 おおむら夢ファームシユシユ



山口成美さん

「会話が苦手な人も体験を通じて打ち解けない。農地を使った農業塾にビュッフェレストランの経営。レストランでは結婚式や法事も実施。農業の仕事を手伝ってもらいながら交流できる場として農家12戸が連携した農家民泊もやっている。」

農業を旅や観光に 結びつけて 一年中にぎわう



ビュッフェレストラン

従業員の女性比率は83%



工房のみなさん

「加工品や商品開発は女性消費者の視点がとても大事です。彼女たちが商品開発やデザインなども手がけています」と山口社長。

新規の雇用も毎年行っている。全体の売り上げは年間7億円。農業のインタースhipも大学、市、県と連携して実施している。大村市では2020年、新規に農業を始めた人が90人も生まれた。全国的にも画期的な事例である。

(取材・文 川丸弘美)

「加工品や商品開発は女性消費者の視点がとても大事です。彼女たちが商品開発やデザインなども手がけています」と山口社長。新規の雇用も毎年行っている。全体の売り上げは年間7億円。農業のインタースhipも大学、市、県と連携して実施している。大村市では2020年、新規に農業を始めた人が90人も生まれた。全国的にも画期的な事例である。